

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語Ⅳ
科目基礎情報					
科目番号	0037	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	1		
教科書/教材	教科書: なし (プリントを配布), 参考書: 『国語便覧』, 『国語辞典』 (どの出版社のものでも良い)				
担当教員	江原 由美子				
到達目標					
<p>学習目的: 日本語に関する知識を拡充し, 日本語力を向上させる。 様々な文書を作成する技術を習得する。 日本語による表現力を養い, コミュニケーション能力を高める。</p> <p>到達目標 1. 日本語に関する知識を拡充し, 多様な場面で活かすことができる。 2. 社会生活に必要な, 様々な文書を作成する技術を身につける。 3. 自らの意見や考えを, 適切で説得力のある言葉により, 表現できるようになる。 ◎効果的な説明方法や手段を用いて, コミュニケーションを図ることができる。</p>					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	敬語や文法等の日本語に関する知識を増やし, それを多様な場面で適切に運用できる。	敬語や文法等の日本語に関する知識を増やし, それを様々な場面で活用することができる。	敬語や文法等の日本語に関する知識を増やし, それを活用する努力をすることができる。	敬語や文法等の知識を増やす努力をせず, 場面に応じた言葉の使い分けができない。	
評価項目2	様々な文書形式について理解し, 場面に適した効果的な文書を作成することができる。	様々な文書形式について理解し, 場面に適した文書を作成することができる。	様々な文書形式について理解し, 指定された文書を作成することができる。	形式に沿った文書を作成することができない。	
評価項目3	様々な事象について自らの意見や考えを持ち, それを適切かつ説得力のある言葉により表現できる。	様々な事象について自らの意見や考えを持ち, それを相手に伝える言葉で表現できる。	様々な事象について自らの意見や考えを持ち, それを自身の言葉で表現できる。	様々な事象について自らの意見や考えを持つとせず, 自身を表現する努力もしない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 一般 学習の分野: 国語</p> <p>必修・履修・履修選択・選択の別: 必修</p> <p>基礎となる学問分野: 人文学/文学・言語学</p> <p>学科学習目標との関連: 本科目は一般科目学習目標「(3) 生きるための活力と, その自由な表現力を身につける」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力の育成, F-1: 日本語による発表や討論・記述をとおして, 自分の考えを相手に表現できること」であるが, 付随的には, 「F-2: 発表や討論をとおして, 相手の考えや知識の相互理解ができること」や, 「D-3: 課題解決のために他者と共通認識を形成しながら, 組織的な取り組みができること」にも関与する。</p> <p>授業の概要: 前期は, 日本語の力を総合的に高めるべく, 講義と問題演習, 確認テスト等を行う。後期は, 就職や進学に向けて, 日本語の表現力を高めるべく, 講義と実践的な課題演習を行う。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 前期は, 敬語や文法等の日本語表現について講義や問題演習を行い, 適宜, 確認テストを実施する。また, 社会生活の中で必要となる文書や, 文章の書き方の基本事項についても講義を行い, 適宜, 課題提出物を課す。 後期は, 就職や進学の際に必要な文書や, 社会生活において身につけておくべき日本語表現法について, 講義と実践的な課題演習を行う。</p> <p>成績評価方法: ・最終成績は, 前期成績 (50%) + 後期成績 (50%) により評価する。 ・前期成績は, 確認テスト (60%) + 課題提出物 (40%) により評価する。確認テストは授業時に行い, 詳細はその都度指示する。正当な理由により確認テストを受けられなかった者には, 再テストを行う。その場合の評価は, 当該の確認テストと同等とする。 ・後期成績は, 課題提出物 (80%) + 発表 (20%) により評価する。 ・定期試験は実施しない。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 本科目は, 4 学年の課程修了のために履修 (欠席時間数が所定授業時間数の 3 分の 1 以下) が必須の科目である。</p> <p>履修のアドバイス: 次回の授業に向け, 内容を復習し, 知識の定着を図ること。課題は必ず提出すること。常日頃から, 自身の日本語力やコミュニケーション能力を高める努力をすること。</p> <p>基礎科目: 国語Ⅰ (1 年), 国語Ⅱ (2), 国語Ⅲ (3) 関連科目: 科学技術作文 (4 年), 人間と文学 (4)</p> <p>受講上のアドバイス: ・授業開始時刻に遅れた場合, 20分までは遅刻, それ以降は欠課として扱う。 ・欠課する (した) 場合は, 欠課届あるいは公認欠課届を提出すること。確認テストは, 欠課の届け出がなかった場合, 当該のテストが 0 点となる。 ・授業に積極的に参加し, 期限を守って忘れずに課題を提出すること。 ・授業中に辞書を引く場合, 携帯電話やスマートフォンの辞書を使用することは認めない。</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	敬語の基礎		

		3週	履歴書の書き方		
		4週	葉書や封筒の書き方		
		5週	敬語の問題演習 1		
		6週	敬語の問題演習 2		
		7週	敬語のまとめ		
		8週	(前期中間試験)		
	2ndQ	9週	文法の基礎 1		
		10週	文法の基礎 2		
		11週	間違えやすい文法 (ら抜き言葉, れ不足言葉, さ入れ言葉等) の問題演習 1		
		12週	間違えやすい文法 (ら抜き言葉, れ不足言葉, さ入れ言葉等) の問題演習 2		
		13週	手紙文 (縦書き) の書き方		
		14週	文章を書く際に注意すべきこと (文章構成, 文法, 表記等) 1		
		15週	(前期末試験)		
		16週	文章を書く際に注意すべきこと (文章構成, 文法, 表記等) 2		
	後期	3rdQ	1週	ガイダンス	
			2週	E-mailの書き方	
3週			ビジネス文書・添え状の書き方		
4週			手紙文 (横書き) の書き方		
5週			電話の応対		
6週			自己分析とアピールポイントの抽出		
7週			アピールポイントの自由表現		
8週			(後期中間試験)		
4thQ		9週	自己PR文の作成		
		10週	自由表現のプレゼンテーション		
		11週	企業研究 (就職志望者) ・ 大学研究 (進学志望者)		
		12週	志望動機文の作成		
		13週	時事問題の調査		
		14週	時事問題の討議		
		15週	(学年末試験)		
		16週	まとめ		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	10	0	0	60	30	100
基礎的能力	0	10	0	0	60	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0